

行橋市 防災食育センター



贈呈理由 昼間に大量に使用する給湯を夜間に蓄えて(エコキュート及び電気式簡易ボイラー)大幅な省エネを実現



防災食育センター



業務用エコキュート



電気式簡易ボイラ

行橋市は、福岡県東部に位置し北九州市から南南東25km、福岡市から東70km、大分県中津市から北西25kmの場所に位置する京築地域(福岡県の北東部地域)の中心都市である。

JR行橋駅前を中心に市街地を形成しており、この東側には住宅や行橋駅前通りの沿道には商店などが集中している。近年は、北九州市のベッドタウン化が進み、駅の西側には大型ショッピングセンターやマンションなどが多く建設されている。ベッドタウン化によって市制当初(1955年)の人口は4万人程であったが、05年の国勢調査で人口が7万人を突破し、現在でも人口は増加傾向にある。

行橋市の学校給食は、隣接するみやこ町との京築広域市町村圏事務組合の事業で運営。行橋・京都学校給食第一センターと第二センターの二センター体制で、みやこ町を含む小中学校32校に約10,000食を提供していた。

しかし、設備の老朽化にともなう維持管理費の増加などの問題が顕著になり、行橋地区の小中学校の約8割をまかっている第一センターの移設・建て替えを行うこととなった。移設・建て替えにあたっては、児童生徒、保護者、教職員からアンケートを実施。災害発生時の食糧供給などの防災と平常時の学校給食などの食育を実施する新しい形態の施設として、14年4月にオープンした。

オール電化で大幅な省エネを実現

施設は、全国でも珍しいすべて電気の調理機器で運用。小中学校17校に約6,200食を提供している。また、食を育む観点から、食物アレルギー対応特別調理室も備えている。

最大電力の抑制対策として、夜間電力を使った電気式の簡易ボイラ(150kg/h×14台)と効率に優れた業務用エコキュート(40kW×6台、貯湯槽20m³×2

基)を採用。オール電化により、ガスや油と電気の併用と比べて、大幅な省エネを実現した。また、環境配慮の観点から、太陽光発電設備(30kW)を設置し、昼間電力使用量の低減にも努めている。

防災対応設備については、停電時に自家発電設備(270kW)により稼働する炊飯施設と電気釜を備えるとともに、飲料水(約60t)、白米(約3t)、防火用水・生活用水(約40t)の備蓄を可能としている。

今後、平時の学校給食と災害などの有事の際に、行橋市民に大きく貢献することが期待される。

行橋市 防災食育センター

所在地:福岡県行橋市東大橋6-8-1
 建築設計:アトリエBBS(株)
 建築施工:日本国土開発(株)
 蓄熱設備設計:志和設備設計事務所
 蓄熱設備施工:三菱電機住環境ソリューション(株)(業務用エコキュート)(株)IH検査計測(電気式簡易ボイラ)
 延床面積:3,917m²
 竣工:2013年(新設)

■蓄熱設備概要
 業務用エコキュート機 40kW×6台(三菱電機)
 貯湯槽:40m³(20m²×2基)
 蓄熱式蒸気発生器 150kg/h×14台
 (IH検査計測)